



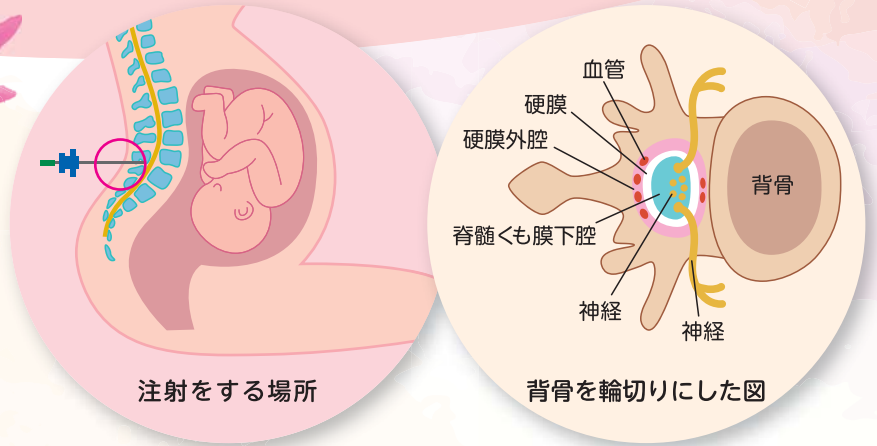
無痛分娩を 受けられる方へ

社会医療法人 愛仁会
千船病院

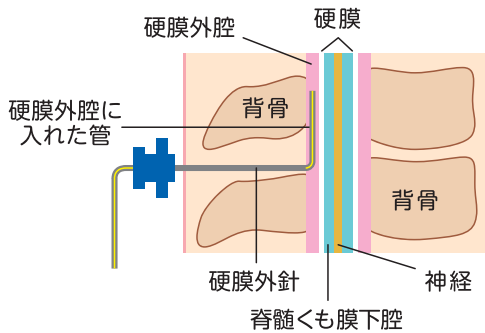
はじめに

出産時の子宮の収縮や産道の広がりに伴う痛みは、脊髄を通して脳へ伝えられます。無痛分娩では、体の一部に麻酔(区域麻酔)を施して痛みを和らげる硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔が用いられます。腰部から麻酔を行うことで、子宮や産道から伝わる痛みを脊髄で遮断するため、出産時の痛みを効果的に和らげることができます。麻酔中はお母さんの意識は保たれるほか、赤ちゃんへの影響もほとんどありません。

無痛分娩の麻酔

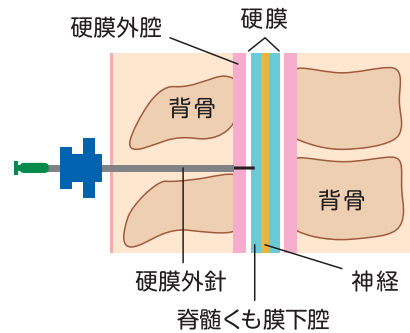


1 硬膜外麻酔



脊椎の硬膜外腔に細いチューブ(カテーテル)を挿入し、出産まで継続して局所麻酔薬を注入する方法で、無痛分娩で一般的に用いられています。痛みの程度に応じて薬の量や種類を調整しながら投与し、30分程度で痛みを緩和させます。

2 脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔併用麻酔

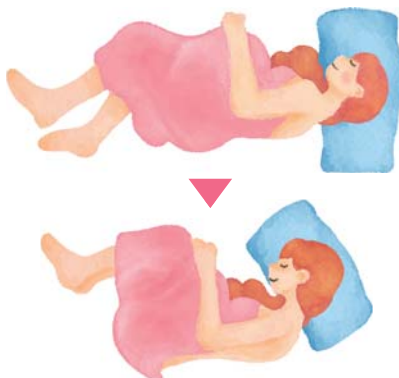


脊髄くも膜下腔に麻酔薬を一度注入することで、迅速かつ確実に痛みを和らげることができ、15分程度で効果が表れます。その後、硬膜外カテーテルを用いて持続的に局所麻酔薬を投与します。

3 麻酔をする時の体位

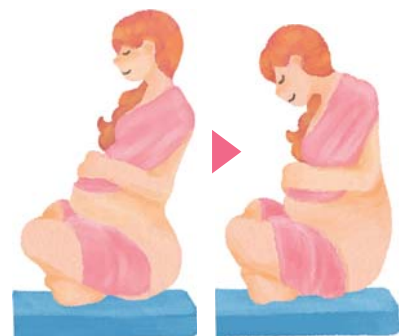
ベッドで横向きに寝るか、座った状態で背中から麻酔を行います。顎を引き、背中を丸めて、腰を後ろに突き出す姿勢を取ることによって硬膜外カテーテルが挿入しやすくなります。入院をする前に練習をお願いします。

横向きに寝る場合



ベッドに横向きに寝て、背中を丸めます。自分の顎を胸に、膝をお腹につけるようにしてお腹を引っ込めるイメージです。

座る場合



ベッド上に座り、背中を丸めます。自分の顎を胸に、膝をお腹につけるようにしてお腹を引っ込めるイメージです。

4

無痛分娩の流れ



規則的な陣痛が起きて鎮痛を希望された時、状況を判断して無痛分娩を開始します。硬膜外カテーテルから医師が局所麻酔を投与し、薬の調整をします。薬が過量投与とならないようあらかじめ基準投与量を設定しています。



陣痛中のお腹の張りや便意(いきみ反射)、赤ちゃんがお尻を押す感覚は残しながら麻酔を行います。効果が不十分である場合は、硬膜外カテーテルから麻酔の薬を追加投与します。



麻酔の効果により、陣痛やお腹の張りが全くわからなくなる場合、分娩の進行状況に応じて一時的に麻酔の薬を減量する場合があります。

麻酔の薬は効き目により、量や種類を調節します



5

硬膜外無痛分娩で起こり得る副作用や合併症

硬膜外無痛分娩の安全性は確立されていますが、いくつかの副作用が確認されています。そのため、分娩中は硬膜外麻酔を受けたお母さんの心電図、血圧、酸素飽和度を常にモニターし、定期的に医師が診察します。また、赤ちゃんの心拍モニターも継続して行い、適切な治療を行います。

副作用

- **血圧低下**
点滴や昇圧薬を投与し治療します。お母さんには仰向けよりも血圧が下がりにくい横向きの姿勢をとっていただくことがあります。
- **お産への影響・分娩第二期の遷延**
分娩第二期(子宮の出口が完全に開いてから赤ちゃんが生まれるまで)の時間が延長する場合、帝王切開の必要性を減らすため、陣痛促進剤や吸引分娩が必要になります。
- **脚のしびれ、力が入りにくい**
足の感覚が鈍くなったり、動かしにくくなる場合があります。
- **排尿障害**
尿意を感じにくくなったり、排尿をしにくくなる場合があります。その際、尿道に管を入れて排泄の処置をします。
- **嘔気・嘔吐**
分娩が進行すると起こりやすくなります。また、麻酔による血圧低下を原因とする場合もあります。
- **腰痛**
産後2～3日の間、腰痛が継続することがあります。また、出産によって引き起こされる痛みを原因とする場合もあります。
- **かゆみ** ● **発熱**

合併症

- **よく起こる合併症(10%)**
分娩中に痛みがとれない。もしくは身体の片側だけ麻酔の効果が表れていない。
- **時々ある合併症(1～3%)**
産後、ひどい頭痛が続くことがあります。
- **あまりない合併症**
カテーテルが脊髄くも膜下腔や血管内に入ってしまうことがあります。
【脊髄くも膜下腔に入る場合】
麻酔が肩や手まで広がり、足に力が入らないなど
【血管内に入る場合】
局所麻酔薬中毒になり、けいれん、不整脈などが起こります。
- **非常に重大な合併症**
 - 硬膜外血腫 (1/100万人)
 - 硬膜外膿瘍 (1/5万～10万人)
 - 重大な神経障害 (1/25万人)
 分娩が原因で脚のしびれが起こることもあります。

上記の症状にはそれぞれ適切な対処法があります。医師・助産師へご相談ください。



6 費用

通常の分娩費用に加え、初めての出産の場合は15万円、2度目以降の出産の場合は13万円が追加費用として必要となります。短時間であっても処置を行った時点で無痛分娩費用が発生します。

7 無痛分娩の同意を撤回する場合

一度同意書を提出した場合であっても、硬膜外麻酔あるいは脊髄くも膜下麻酔が開始されるまでは無痛分娩を中止できます。中止をする場合はその旨を助産師までご連絡をお願いします。

8 安全のために、以下の場合は無痛分娩が実施できない事があります

- ① 夜間もしくは休日の当直帯に、手術や集中治療業務などが立て込み、麻酔業務から手が離せない場合
- ② 災害などの交通規制や交通事情で麻酔担当医が病院に出勤できない場合
- ③ 分娩の進行が早く、妊婦さんが来院直後に分娩となり麻酔を行う体位がとれない場合
- ④ 予定時には問題がなかったが分娩時に医学的に硬膜外無痛分娩の適応から外れた場合（急激な血小板低下、硬膜外穿刺部位の皮膚感染など）

9 硬膜外麻酔をするために以下のサプリメントは服用をやめてください

- DHA
- オメガ3
- イチョウ葉
- EPA
- ノコギリヤシ
- 朝鮮ニンジン
- ニンニク



無痛分娩中の過ごし方



【お食事・お飲み物】

基本的にお食事はとれませんが、水分・飴・ガムなど下記の例はとっていただけます。

- お茶
- スポーツドリンク
- 果肉入りでないジュースやコーラ
- ブラックコーヒー（牛乳入りは×）
- 溶けやすい形状のアイスキャンディー（脂肪分がはいっていないもの） など



【どれくらい動けるの？】

麻酔開始後は足に力が入りにくくなることがあり、歩くと転んでしまう危険があります。このため基本的にはベッドの上で過ごしていただけます。また、麻酔中は下半身の感覚が鈍くなるので、床ずれ防止のため、定期的に体の向きを変えてください。トイレの際は細いカテーテルの管を入れたりすることがあります。